

大野城市共働事業提案制度  
事業進捗状況資料

子どもたちの夢と希望を醸成する  
子どもの居場所づくり事業  
(令和5年度)

子どもの居場所づくり事業実行委員会

特定非営利活動法人チャイルドケアセンター  
大野城市こども・若者政策課  
(令和5年度採択事業)

## 目 次

1. 提案時の状況と課題
2. 事業目的
3. 共働の必要性（提案団体と市の強みと弱み）
4. 事業スキームと役割分担
5. 実績と成果
6. 翌年度の事業内容
7. 将来展望
8. その他アピールポイント

# 1. 提案時の状況と課題

## (1) 解決する課題

### ①子どもの貧困問題

日本では、7人に1人の子どもが貧困状態にあるといわれています。ただし、日本における「子どもの貧困」とは、「相対的貧困」のことを指します。毎日の衣食住に事欠く「絶対的貧困」とは異なりますが、相対的貧困状態にある子どもたちは、経済的困窮を背景に教育や体験の機会に乏しく、地域や社会から孤立し、大人になる成長過程の様々な面で不利な状況に置かれてしまう可能性があります。また、こうした世帯で育つ子どもは、医療や食事、学習、進学などの面で極めて不利な状況に置かれ、将来も貧困から抜け出せない傾向があることが明らかになりつつあり、子どもの貧困問題への対応は喫緊の課題です。

大野城市においても、市が2018年に実施したこども・若者に関するアンケート調査によれば、生活困難世帯（世帯人数ごとに基準額を設定し基準額を下回る世帯を対象）が、全体のうち4.7%でした。算出方法が異なるため単純比較はできませんが、2022年10月に実施したアンケート調査では、相対的貧困率は、乳幼児保護者世帯7.9%、学童保護者世帯8.2%、中学生保護者世帯9.8%となっています。

また家庭の状況において経済的理由による制限があったかどうかについては、乳幼児期を持つ家庭の13%、学童期の家庭の12%の家庭において、経済的理由のため必要なものが買えなかったとの回答が得られています。このようなことから大野城市においても子どもの貧困問題が顕在化しつつあることが分かります。

貧困から生じる問題には、まず、「経済的な困窮」、さらに、「つながりの希薄化（地域からの孤立）」があります。この二つは関連しており、その両方にアプローチできるのが「こども食堂」であると考えます。

### ②行政や支援組織の視点から見た「こども食堂」の課題

子どもの貧困対策について「こども食堂」を通してアプローチする上での課題としては、以下が考えられます。

- (ア) 市として、相談窓口を設置し対応する体制を整えているものの、行政に対する「心理的ハードル」が高く、なかなか相談窓口に来てもらえないため、本当に支援が必要な人へのアプローチが十分にはできていないこと（行政だけの支援の限界）
- (イ) 「こども食堂」による食事の提供だけで、経済的困窮者が抱える根本的な問題を解決することは難しいこと。また、経済的困窮者へどの程度アプ

ローチできているのか不明であること（NPO 法人だけでの支援の限界）

(ウ) 現在「こども食堂」は、現在ほぼ区単位で開催されており、こども食堂の設置数は充足しているものの、開催回数が少ないところもあるため、回数を増やしたり、「安心できる居場所」として機能するよう、アットホームな雰囲気づくりを行ったり、学習支援などにより様々な学びや交流の機会づくりを行うなど、質的な向上が必要であること

## (2) 市民ニーズ

現代の家庭の抱える困難は経済的な困窮だけに限らず、多様化、複雑・深刻化しており、地域のつながりも希薄になる中で、安心して過ごせる居場所がなく、孤立してしまう子どもも少なくありません。

困難を抱える子どもたちが地域で孤立することなく、信頼できる大人や友達と安心して過ごし、将来の夢や希望の実現に向けて「生きていく力」を育む地域の居場所が必要と考えます。

また、子育て世帯の中には転勤等で本市へ転入し、実家が遠方であったり、近所に知り合いが少なかったりして、孤立感・孤独感を抱えながら育児をしている方もいます。

本市で暮らす親子にとっては、経済的困窮に対する支援に加えて、地域で孤立することなく子育てできるための「居場所」が必要です。「こども食堂」では、ただ空腹を満たすだけでなく、みんなで一緒に食べることの楽しさ、その時間、体験を提供することで、寂しさや孤立無援を感じていた親子の心も満たすことが必要とされていると考えます。

## (3) 課題解決の方策

「こども食堂」では、安心して過ごせる居場所で食事を提供することに加えて、それぞれの子どもに寄り添った大人の声掛けや見守りを通して、基本的な生活習慣を自然と身に付けさせ、様々な体験活動などの機会も子どもたちに提供する「居場所」としての機能を高めていきます。地域における「こども食堂」が担うべき役割として、地域の子どもたち、そして親たちが安心して過ごすことができ、困った時に、必要な支援を求める力（受援力）を高め、ひとり親家庭や生活困窮世帯の子どもに必要な支援が行き届くきっかけづくりを行います。

上記、(1) ② (ア) に掲げたとおり、行政のみでの支援では限界はありますが、NPO 団体のノウハウを活かしながら、「こども食堂」という直接、市民に触れ合える場で地域住民と協力し合うことで、支援に必要な子・親などと繋がるきっかけを作ることができます。また共働事業を通して情報を共有し合うことで、市は、庁内関係課と連携して重層的支援を行い、行政が市民に必要な支援を確実に届けられる仕組みづくりが可能となります。

## 2. 事業目的

子どもたちが、生まれ育った家庭の経済状況にかかわらず、将来の夢と希望を持ち、自立する力を伸ばすことのできる機会と環境を提供することは、私たち大人世代の責任です。

すべての子どもたちに、人や社会と関わる力、社会で自分らしく生き抜く力を伸ばす支援を行政、地域、NPO など市民の方々と共働で取り組み、「地域のみんなで子どもを守り、育てる社会」をつくることで、子どもの貧困問題の解消を目指していきます。

## 3. 共働の必要性

### (1) 提案団体と市担当課の強みと弱み

	提案団体	市担当課
強み	<ul style="list-style-type: none"><li>・柔軟性</li><li>・専門性</li><li>・現場の実態、ニーズを把握</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・市民サービス、行政サービス</li><li>・信頼感</li><li>・広報力</li></ul>
弱み	<ul style="list-style-type: none"><li>・市民の個人情報不足</li><li>・資金不足</li><li>・不特定多数への広報力が不足</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ハードル(敷居)が高い</li><li>・機動性が乏しい(動きが鈍い)</li><li>・こども食堂など現場のノウハウを持ち合わせていない</li></ul>

### (2) 共働事業に至った経緯

行政と NPO の強みと弱みの考察から、地域の子どもたちと親の居場所としてのこども食堂、ひとり親家庭など生活に困窮する世帯への支援の拠点としたこども食堂づくりを行っていくためには、市政全般にわたる多様な施策との連携が不可欠であり、両者の長を補い合って事業を進めていくことが重要であると考えられます。

また、ひとり親家庭などへのダイレクトなアプローチは、NPO 法人単独では困難であり市との共働が必須です。あわせて地域の身近な居場所づくりのためには、公民館など公的施設との連携を図ることが重要であり、市の支援・協力が不可欠です。

#### ①連携事例

##### 【こども・若者政策課】

ひとり親世帯（児童扶養手当受給世帯）へ「こども食堂」のチラシを送付

##### 【チャイケア】

チラシを見た方がこども食堂を利用 ⇒ 利用者との関係構築

利用者からの相談をケースごとに市担当課へつなぐ

#### ②それぞれの役割

##### 【こども・若者政策課】

行政情報（個人情報）の把握、庁内関係課とのパイプ役

##### 【チャイケア】

利用者との信頼関係づくり（困りごとを聴き取り）

## 4. 事業スキームと役割分担

### （1）事業内容

#### ①大野城市こども食堂ネットワーク会議の開催

大野城市内のこども食堂を運営する団体から構成される「大野城市こども食堂ネットワーク会議」を開催し、こども食堂に関する情報提供や意見交換、衛生管理に関する研修、ボランティアや寄付金、寄付食材の募集・管理・分配、行政団体等への対応を行います。

○参加団体（目標）：43団体

#### ②こども食堂コーディネーターの設置

こども食堂を地域に根ざした取組みとして大野城市内に広げていくために、こども食堂の運営に精通したコーディネーターを置き、地域や学校、行政などと運営に関する調整や相談、情報提供などきめ細やかに対応していきます。

##### （ア）こども食堂コーディネーターの役割

こども食堂の運営に関する情報の収集・助言など各種サポートを行います。市内のこども食堂の開催に合わせこども食堂を訪問し、相談事などに対応します。

##### （イ）活動頻度：週4回（半日／回）のコーディネート業務

#### ③ひとり親家庭などへのサポート事業

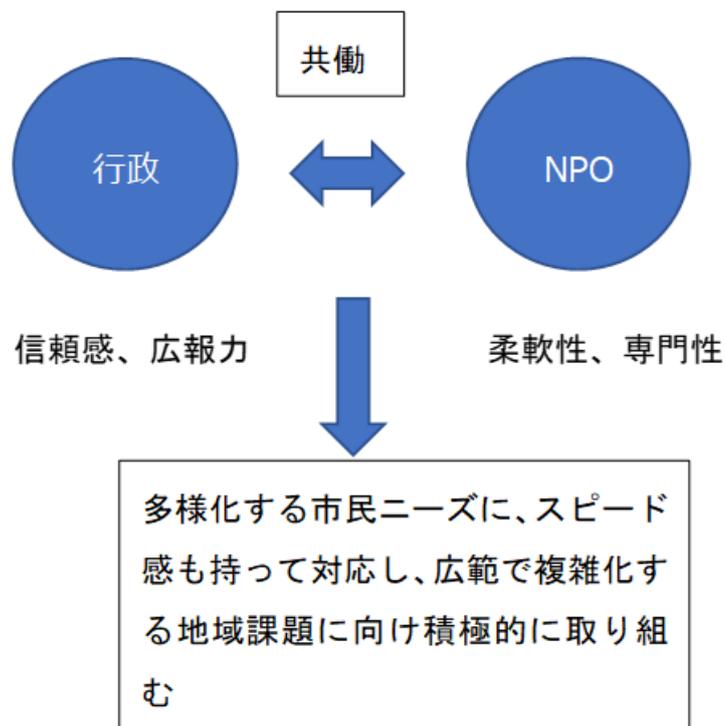
こども食堂やフードパントリーを通して、ひとり親家庭などへ食材を配布するサポート事業を実施します。また、宅食などを活用し、ひとり親家庭などの様子を見に行くアウトリーチ型の支援方法をとることによって、よりきめ細かな支援を実施します。

○活動頻度：週2回（半日／回）サポート業務（アウトリーチ型支援を含む）

#### ④大野城市版「こども食堂マニュアル」の作成、活用

- 子どもの居場所としての「こども食堂」を開催するため、事業のポイントや、活動を長く続けるための工夫、新型コロナ等感染症予防の観点からの留意事項などの基本的な事項を記載。
- 参加者を見守る際に配慮してほしいこと、適切な対応方法など、スタッフとして気を付けてほしい事項を記載。
- 支援が必要な子どもや、様子が気になる親子を見つけた際に、どのように声掛けを行うか、適切な相談先・支援先へのつなぎ方などを記載（市の行政サービスをまとめた一覧表も添付）

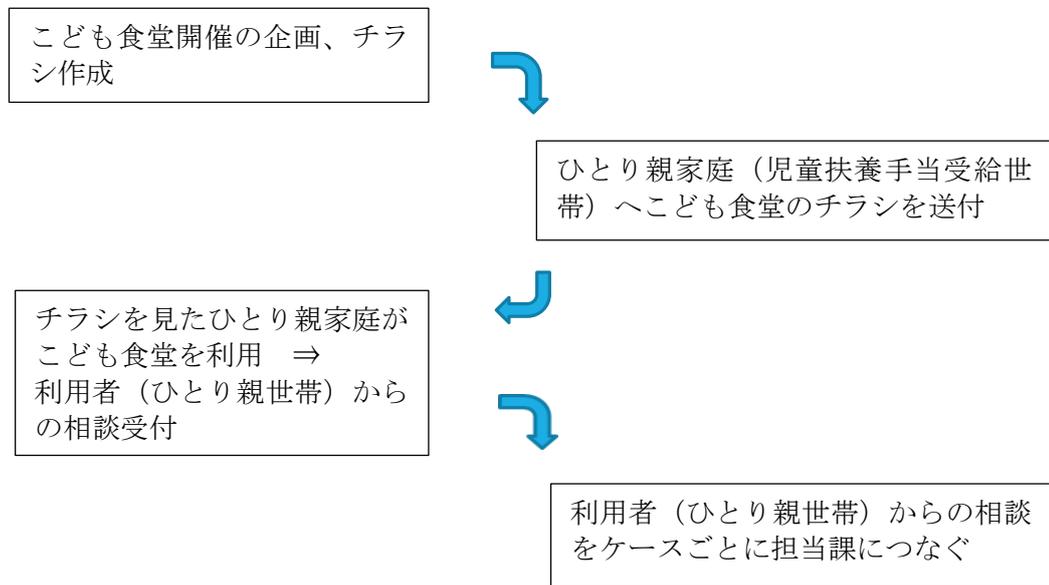
#### (2) 共働事業の基本スキーム



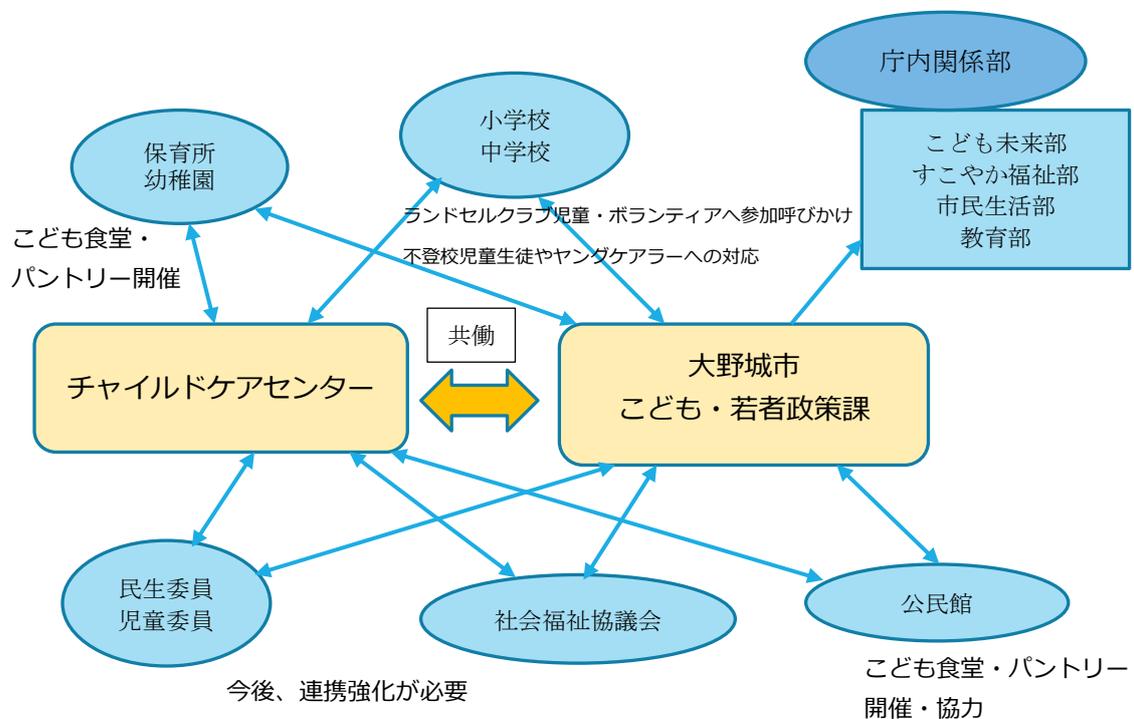
(3) ひとり親家庭へのサポート事業のスキーム

《チャイルドケアセンター》

《大野城市子ども・若者政策課》



(4) 本事業に関わる関係団体図（イメージ図）



## 5. 実績と成果

### (1) 事業実績

①令和5年度（事業実施期間 令和5年4月1日～令和6年3月31日）

#### (ア) 実行委員会の開催について

○第1回子どもの居場所づくり事業実行委員会

日時：令和5年5月22日（月）10:00-12:00

場所：大野城市すこやか交流プラザ3F会議室

内容：事業の進め方について

○第2回子どもの居場所づくり事業実行委員会

日時：令和5年6月22日（木）10:00-12:00

場所：大野城市すこやか交流プラザ3F会議室

内容：「大野城市こども食堂ネットワーク会議」発足式について

○第3回子どもの居場所づくり事業実行委員会

日時：令和5年7月13日（木）12:00-13:30

場所：大野城市すこやか交流プラザ3F

内容：「大野城市こども食堂ネットワーク会議」発足式について

○第4回子どもの居場所づくり事業実行委員会

日時：令和5年7月21日（金）12:00-13:00

場所：大野城市すこやか交流プラザ3F

内容：「大野城市こども食堂ネットワーク会議」発足式について

○第5回子どもの居場所づくり事業実行委員会

日時：令和5年9月8日（金）10:00-12:00

場所：大野城市すこやか交流プラザ3F

内容：振り返り面談会資料

コーディネーター業務

ひとり親家庭へのサポート事業の進め方

○第6回子どもの居場所づくり事業実行委員会

日時：令和5年10月2日（金）13:00-15:00

場所：大野城市すこやか交流プラザ3F

内容：振り返り面談会資料

コーディネーター業務

ひとり親家庭へのサポート事業の進め方

- 第7回子どもの居場所づくり事業実行委員会  
日時：令和5年10月20日（金）10:00-13:00  
場所：大野城市すこやか交流プラザ3F  
内容：共働事業中間報告及び推進委員会の資料  
第2回大野城市こども食堂ネットワーク会議の進め方  
ひとり親家庭へのサポート事業の進め方  
こども食堂マニュアル
- 第8回子どもの居場所づくり事業実行委員会  
日時：令和5年11月15日（水）13:30-15:30  
場所：大野城市すこやか交流プラザ3F  
内容：第2回大野城市こども食堂ネットワーク会議の進め方  
ひとり親家庭へのサポート事業の進め方  
こども食堂マニュアル
- 第9回子どもの居場所づくり事業実行委員会  
日時：令和5年12月26日（火）10:00-12:00  
場所：大野城市すこやか交流プラザ3F  
内容：第2回大野城市こども食堂ネットワーク会議の報告  
ひとり親家庭へのサポート事業の進め方  
コーディネーターの活動報告
- 第10回子どもの居場所づくり事業実行委員会  
日時：令和6年1月18日（木）10:00-12:00  
場所：大野城市すこやか交流プラザ2F 健康学習室3  
内容：大野城市共働事業提案制度の審査結果への対応について  
ひとり親家庭へのサポート事業（おれんじパントリー）  
コーディネーターの活動報告
- 第11回子どもの居場所づくり事業実行委員会  
日時：令和6年3月12日（火）15:15-17:00  
場所：大野城市すこやか交流プラザ  
内容：コーディネーターの活動報告  
こども食堂マニュアル  
実績報告書の提出  
おれんじパントリー  
事業費執行状況

(イ) こども食堂ネットワーク会議

○こども食堂ネットワーク会議準備会議

日時：令和5年5月29日（月）11:00-12:30

場所：iroiro Company 事務所（大野城市御笠川）

参加者：大野城市こども食堂運営者（7団体）、  
実行委員会委員

内容：こども食堂ネットワーク会議について



○第1回大野城市こども食堂ネットワーク会議 発足式

日時：令和5年7月24日（月）10:00-11:30

場所：まどかぴあ 多目的ホール

出席者：来賓として市長参加

区出席者25名、一般出席者53名 計78名参加

※ネットワーク会議の案内・周知をNPOと行政で実施

- ・区長会、食生活改善推進委員、民生児童委員の正副会長会で説明
- ・各区にこども食堂の取り組みの説明と協力依頼のため訪問
- ・マスコミに取材及び報道依頼、広報などによる周知



○第2回大野城市こども食堂ネットワーク会議

日時：令和5年12月7日（木）10:00-12:00

場所：大野城心のふるさと館 講座学習室

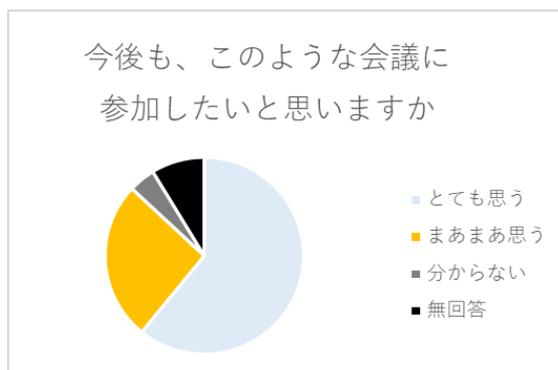
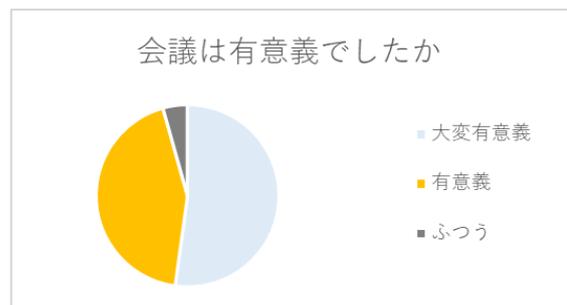
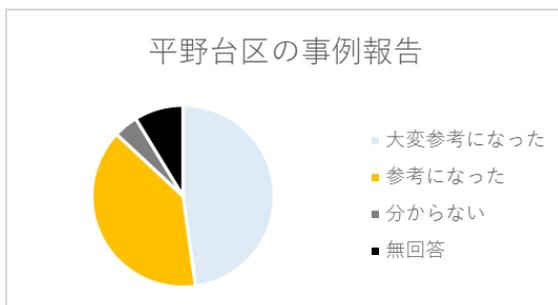
参加者：24名（ネットワーク会議の会員）

内容：

- ①講話「防災・減災 そして 災害時に何ができるか」  
（講師：大野城市危機管理課 防災危機管理専門官 高橋博士氏）
- ②事例報告「ふれあい平野食堂」  
（講師：平野台区 永野元生区長）



アンケート結果



(ウ) コーディネーター業務

○令和5年7月24日(月)「大野城市こども食堂ネットワーク会議」発足式において任命。(チャイルドケアセンター 川本友美・水城宏美 2名)

○8月活動実績 相談対応件数27件、公民館との情報交換(瓦田区など)

大野城市こども食堂ネットワーク会議後、こども食堂からの食材のリクエスト方法や開催時の注意点などについての相談や新規開設に向けての相談が多く寄せられました。さらにこども食堂を再開された公民館へ出向き、衛生管理や情報発信の手段など学校や地域との連携などの情報共有を図ることができました。

また、こども食堂マニュアルの発行にむけて内容調整の打合せも開始しました。

○9月活動実績 相談対応件数27件、公民館との情報交換(南ヶ丘2区など)

先月に続き、こども食堂開設にむけた、食材リクエスト方法の確認や月一パントリー開催の際に、各こども食堂の課題の相談が多く寄せられました。(人員確保や資金やパントリーの配布の対応について等)

また、新規開設にむけた啓発活動として公民館に出向きこども食堂・パントリーの説明会を行いました。さらには夜のこども食堂再開にも参加し現在の参加される方へのヒアリング(時間帯はいつが参加しやすいか、どういったメニューが希望か)を行い、今後の開設にむけた情報収集を行いました。(新設件数 公民館0、民間の母子福祉施設1件)



○10月～12月活動実績

【公民館訪問】

大野城市内全域の公民館への連絡、および訪問を継続して行っている。食材の手配や現在の公民館の状況と今後の開催にむけての課題などを定期的に共有している。

- ・若草公民館は対面の食堂開催を地域の行事と併せて再開していただけると

のことでご連絡をいただいた為、こども食堂のマニュアルに沿って衛生管理や注意事項などを再確認し実施にむけた準備を行った。

・これまで月に一度のこども食堂パントリーを開催されていた公民館さんに関しては、マンパワーが足りずスタッフの負担に繋がってしまうことが懸念されるため、今後やり方をどうしたらよいかのご相談が入った。(瓦田公民館) 様々な協議を行った結果、毎月のこども食堂パントリーは廃止し、年3回程度会食型のこども食堂を開催することになった。地域の居場所として確立しつつあった公民館会場だった為、丁寧にこども食堂の意義を共有させていただき、永く継続していただける形に変更した。

・今後、公民館が一斉に休館日が設定されるとの事で、公民館の活性化にこども食堂が機能できれば地域の方の居場所に繋がられるのではないかと。それぞれの公民館が一同に、若い世代の公民館の利用促進を課題として挙げられたこともあり、そういった課題にも可能性があるこども食堂の開設の提案が必要だと考えている。

#### 【啓発活動】

令和5年10月～12月にかけて各地域や県域・近隣の市町村へこども食堂の啓発活動を行った。

初めて、すこやか健康フェスタにも参加し、オレンジリボン啓発とともにこども食堂の啓発を行った。参加されたご家族からは「気になっていた」「テレビではみたことがあったが大野城市であることは知らなかった」「ボランティアでお手伝いするにはどこに相談したらよいか」など活動に興味を持たれている方が多いことを感じた。

#### 【おれんじパントリー】

R5. 12. 15(金)御笠川、12. 16(土)つつじヶ丘において、おれんじパントリーとして初の食材配布を行った。(御笠川27名、つつじヶ丘14名参加)

児童扶養手当のお知らせと一緒に専用公式アカウントの告知を行い、登録いただいた方への配布を完了した。

配布日は小雨の降中だったが、遠方よりバスに乗り、小さい赤ちゃんを抱っこしてつつじヶ丘までこられた方もいらっしゃった。ご参加された方からは、「なかなか厳しい状況なのでこんな配布をしてもらえるなんて涙がでそうです。」「このような活動をいつからされていたんですか？もっと早く知りたかったです」「こどもにも我慢させてばかりいます」など生活に直結したサポートであることを実感した。今後も継続してサポートを行っていきたい。

## ○ 1月～3月の活動実績

### 【公民館訪問・対応】

・若草公民館さんは、前回お話に出向いてから、詳細にご質問をいただきながら丁寧に進めてきた経緯がある。実際に月一パントリーに参加をされるようになり、地域の方々へとつながりができ始めている状況。(R6. 1. 19)

・大野城市内全域の公民館への連絡、および訪問を継続して行っている。月1回のFコープパントリーの際に、活動されている各公民館やその他団体の皆さんとお顔を合わせ、直近の団体の様子や課題などお聞かせいただいている。(R6. 2. 8)

・釜蓋公民館さんへもご挨拶に出向いたが、お会いできなかったため事務員の方から簡単な状況だけ伺うことができた。詳細はアポイントを取って再度お話しさせていただく機会を図る予定。(R6. 2. 20)

・中大利公民館さんは、新社屋開設に向けこども食堂のイベントを考えておられ説明をさせていただく機会を設けた。後日運営委員となられる方々(食進会・民生委員・福祉部など)皆さんへもこども食堂の説明をさせていただく機会があり、具体的な実施日も決定した  
(R6. 2. 22)

・福岡県からこども食堂応援プロジェクトとして、県産品(米・鶏肉)の支給があったことでそれらを活用した対面での食堂の実施が多かった。みなさん上手に活用され運営を行われている様子がうかがえた。(かしわごはん・唐揚げなど)さらに今月は県の同プロジェクトより、JA商品券の配布を行っていただいた為、その予算で通常より食数を増やすことができたなど喜びの声が多く届いている。

・南ヶ丘2区公民館のこども食堂担当者変更に伴い、新任のかたへ変更予定ということで様々な質問が入った。こちらも継続開催に不備のないよう引継ぎのフォローを行っている。

・南地区の各公民館よりそれぞれ連絡が入り、公民館用の携帯電話が支給されたとのことで、個人携帯でのやりとりから変更する際の手続きなどに追われた。



#### 【視察対応 (R6. 3. 6)】

・嘉麻市の公民館様から、こども食堂についての講話依頼があったため対応させていただいた。大野城市が県内でもこども食堂の先進的な取り組みを行っていることを耳にしたということで大野城市役所へ問い合わせ当団体につながった経緯がある。

地域で開設するには何から始めたらよいか？食材の予算はどこから捻出しているのか？

利用者の負担はどうするのか？光熱水費はだれが負担すればよいと思うか？などなどたくさんの質問をいただいた。実際大野城市で未開設の団体や公民館さんへのアプローチとして押さえるポイントにも繋がる案件だと思うのでこちらも大変参考になった。



#### ・NPO と協働の現場で学ぶ地域貢献活動ツアー受け入れ (R6. 1. 11)

福岡県コラボステーション様より、NPO と協働の現場で学ぶ地域貢献活動ツアーの一環でこども食堂とフードバンクの取り組みについての研修受け入れを行った。

参加者は県下各方面で活躍されている教員の方や県職員の方、筑紫保健福祉環境事務所の方など多岐にわたり、こども食堂に興味がある方が大野城市でのこども食堂の広がりや活動について熱心に質問されコーディネーターとしての立場で説明を行った。



## (エ) ひとり親家庭へのサポート

11月の児童扶養手当の通知送付の際に、こども食堂やフードパントリーの案内チラシを同封し、参加者を募集しました。その後、下記の通りひとり親世帯を対象とするこども食堂やフードパントリーを開催し、食材等を提供しました。

### ■案内チラシ



食の応援が必要なひとり親家庭の皆様へ

## おれんじパントリー



### 食材や日用品を無料配布

希望されるご家庭を募集します！

大野城市イメージキャラクター  
まどかちゃん

配布場所：①御笠川2丁目 (iroiro Company)  
②つつじヶ丘2丁目 (ファミリー交流センター)

配布日：月1回程度 (上記の場所の1か所を受取り)

配布食材：レトルト食材、飲料水、お米など  
こども食堂に寄贈された食材 (ふくおか筑城フードバンク協力)

申込方法：下のQRコードを読み込み、公式LINEに①お名前  
②お住まいの地域 ③受取場所の番号 ④子どもの  
人数と年齢 以上を記入して、送信してください。  
その後、パントリーの情報を送ります。

※申し込みをされた方の個人情報、特定非営利活動法人チャイルドケアセンターが取り扱うこと  
になります(この目的以外には使用しません)。  
※おれんじパントリーは、ひとり親家庭に限定したパントリーです。このチラシが届いた方のみ、  
申し込みができます。



公式LINEに登録  
してほしいよー



LINE登録ができない場合の連絡先  
特定非営利活動法人チャイルドケアセンター  
メール: kyoudou@npo-ccc.net  
連絡先: 092-589-8688

この取り組みは大野城市と特定非営利活動法人チャイルドケアセンターが大野城市共働家制度を  
活用して「子どもたちの夢と希望を醸成する子どもの居場所づくり事業」として行うものです。

### ■実施日と参加者数について

	日時	会場	参加者数
令和5年12月	15日(金) 18:30~19:30	御笠川	39世帯
	16日(土) 10:00~12:30	つつじヶ丘	21世帯
令和6年2月	9日(金) 17:15~18:10	御笠川	43世帯
	14日(水) 17:00~18:30	つつじヶ丘	14世帯

## ■利用者の感想

- ・ 食べ盛りがいるから経済的に大変
- ・ 普段、嗜好品を購入する余裕がないから菓子類が嬉しい
- ・ お米が嬉しい
- ・ フードドライブの食品でカニ缶やホタテ缶などの高価な食品よりも普段の料理に使えるレトルトやソース類などの方が良い。
- ・ フードドライブの食品は様々な物があり、子どもに選ばせることができるので嬉しい。



(受け取りの様子)



(フードパントリーの食品)



## ■今後の課題

- ・ 初めて利用される方が多く、まだ、コミュニケーションが図れていない。回を重ねて信頼関係を構築し、必要ならばアウトリーチにつなぐ。

## ■公式LINEを通じての配送について

- ・ おれんじパントリーの公式LINEを通じて配送（生活応援便）のご案内をしたところ、84世帯から申込をいただいた。はがきでいただいた感想は以下の通りです。

- ・ 物価高騰で生活が厳しい中、このような支援はありがたい。
- ・ 生理用品はとても嬉しい。
- ・ 育休中で貯金を崩しながら（母子手当無し）生活しているのですごく助かった。
- ・ すぐ使える物、日々使う物などもらう側の立場になって親身に考えてくださっていて嬉しい。
- ・ 先月は初めてフードパントリーに参加した。直接、お顔を見れて自分が応援されているような気がして安心感がありました。しかし、車を持たず、膝も悪くしているので取りに行くのは大変でしたので、配達していただき助かりました。

- ・仕事と子どもの都合でフードパントリーや買い物に行くタイミングが難しいことがあるので送付は助かる。
- ・仕事で平日は帰りが遅く、土日は部活の試合の為、郵送していただけるのは助かる。
- ・子どもが食べ盛りでお米や海苔、お菓子など食料品は助かる。
- ・お米はすごく助かる。お菓子やツナ缶でプチ贅沢ができそう。文具品も高校生の娘が喜びました。
- ・最近、パントリーは枠がすぐなくなったり、日時が合わず申し込みが出来なかったりするのでこの生活応援はすごく助かる。梱包など手間がかかり大変かと思いますが続けてほしい。
- ・物価高の家庭への影響が大きい。フードパントリーに行くのは正直、周囲の目が気になるので宅配は気軽に利用できた。

### (オ) こども食堂マニュアルの作成

筑紫地区こども食堂ネットワーク作成のこども食堂マニュアルをベースとして大野城市版「こども食堂マニュアル」作成しました。

「困りごとを抱えた子ども」などの相談先について、行政内外の機関と調整を図り、マニュアルへ記載しています。

### 【大野城市版「こども食堂マニュアル」(一部)】



### (カ) 大野城市重層的支援会議

福祉、介護、人権などの関係課で構成する大野城市重層的支援会議において、ケースごとに情報共有と必要な支援の検討を行っている。こども食堂の担当課もこの会議の構成員となっており、こども食堂等からの支援が必要なケースについても検討できる体制をとっている。

## (2) 目標と成果

	R5 年度末	R6 年度末	R7 年度末
目標①運営の課題が減り、安定的に運営ができていると考えるこども食堂の割合	10% (実績未確認)	30%	60%
目標②大野城市版「こども食堂マニュアル」の作成	作成	更新	更新
目標③サポート事業でつながることによって、安心感を得たひとり親世帯等の割合	10% (実績未確認)	30%	60%

※R5 年度末の実績値は R6 年度初アンケート調査により把握

## (3) 新たに見えてきた課題

○ひとり親家庭へのサポート事業を進めるにあたって、具体的な方法について現時点で模索している状況です。

例えば、児童扶養手当関係書類を送付する際に、ひとり親家庭等対象のフードパントリーの案内チラシを同封するために、個人情報に配慮した方法を検討しています。

○ひとり親家庭へのサポートについて、ひとり親家庭などの様子を見に行くアウトリーチ型の支援を実施することとしていますが、アウトリーチ型支援の実施方法を検討しています。

○こども食堂を安定的に運営していくためには人と資金の確保が不可欠です。そのためには行政や社協の支援が必要であると考えます。こども食堂運営助成金の創設やボランティア活動の一体的取組みなどを、今後、検討していく必要があります。

○こども食堂の運営者からはコーディネーターが果たす役割が重要であるとの声があり、こども食堂へ寄り添う支援体制をより強化していく必要があると感じています。

## 6. 翌年度の事業内容

本事業の目的である「地域のみんなで子どもを守り、育てる社会」をつくるため、子どもの居場所としてのこども食堂を通して子どもの貧困問題の解消を目指して、引き続き来年度も次の事業を行いたいと考えています。

### (1) 大野城市こども食堂ネットワーク会議の開催

大野城市内のこども食堂を運営する団体や支援者などから構成される「大野城市こども食堂ネットワーク会議」を開催し、こども食堂に関する情報提供や意見交換、衛生管理に関する研修、ボランティアの募集、寄付金、寄付食材の募集・管理・分配、行政団体等との調整を行います。

○参加団体・個人：80団体・個人（こども食堂の運営団体だけではなく、支援して頂ける地域の人たちなど幅広い市民・企業の参加を求めています。）

### (2) こども食堂コーディネーターの設置

こども食堂を地域に根ざした取組みとして大野城市内に広げていくために、こども食堂の運営に精通したコーディネーターを置き、地域や学校、行政などと運営に関する調整や相談、情報提供などきめ細やかに対応していきます。

#### ○こども食堂コーディネーターの役割

こども食堂の運営に関する情報の収集・助言など各種サポートを行います。市内のこども食堂の開催に合わせて訪問し、相談事などに対応します。

○活動頻度：週2回（半日／回）のコーディネート業務を2人で行います。

### (3) ひとり親家庭などへのサポート事業

こども食堂やフードパントリーを通して、ひとり親家庭などへ食材を配布するサポート事業を実施します。

また、宅食などを活用し、ひとり親家庭などの様子を見に行くアウトリーチ型の支援方法をとることによって、よりきめ細かな支援を実施します。

○活動頻度：週1回（半日／回）のサポート業務を2人で行います。

※アウトリーチ型支援を含みます。

### (4) こども食堂マップの作成

市内のこども食堂を示した地図を作成・配付するとともに、ホームページなどで情報発信を行います。

## 7. 将来展望

全国住みやすい街ランキング1位に選ばれたことがあり、第6次総合計画で「未来をひらくにぎわいとやすらぎのコミュニティ都市」を標榜する大野城市にとって、子育て支援の充実は今後も続けていくべき政策の要であると考えます。その観点からこれからは子どもの居場所をしっかりと確保していくことが重要であり、そのために行政、地域、NPOなどの民間支援組織が手を取り合って連携して取り組んでいくことが求められています。

今回の共働事業においては、子どもの貧困対策を中心にこども食堂やひとり親世帯への支援を行ってきましたが、それをさらに発展させ、地域の子どもたちが分け隔てなく自由に楽しく過ごせる居場所を確保していくことに軸足を移していくことが真に住みやすい街をつくっていくために必要だと考えています。子どもが自由に遊べる空間、例えば大野城市が誇る公民館という施設をさらに、こどもを真ん中に据えた場所にする取組や、不登校児童・生徒が現状を肯定的に捉え、創造力を育てることができる場を増やす取組みを行っていくことが極めて大事だと思います。

それを実現するためには、まず行政が高い理想を掲げてその目標に向かっていく矜持を持ち、そしてそれを支える民間支援組織が動きやすい環境を作っていくこと、また地域や民間組織はその行政の期待に応え、役割をしっかりと果たしていくことが重要だと考えます。

## 8. その他

子どもの居場所の確保は、地域コミュニティが希薄化している現状からみて、極めて重要な取り組みであると思います。

ある区長の方が、公民館を子どもの居場所のために積極的に活用していきたいと仰られていましたが、大野城市民である私たちはその思いを是非とも実現したいと考えています。